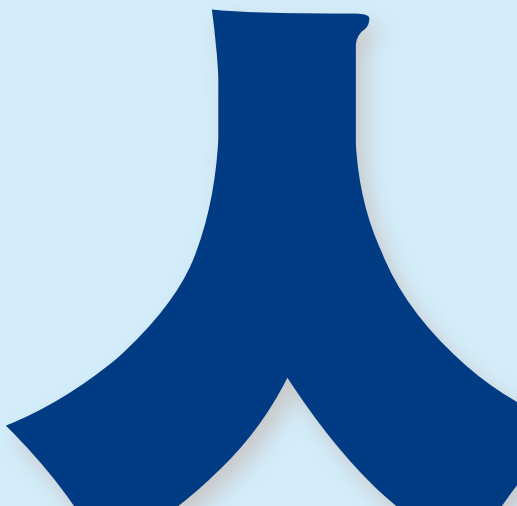




Kodai



Jini



1 ●ごあいさつ

同窓会会長	秋元 俊通
後援会会長	小泉 昭一氏
電気電子工学科学科長	丸山 次人氏
情報通信工学科学科長	村岡 一信氏
建築学科学科長	石井 敏氏
都市マネジメント学科学科長	中山 正与氏
環境エネルギー学科学科長	丸山 容子氏
クリエイティブデザイン学科学科長	坂手 勇次氏
安全安心生活デザイン学科学科長	小山 祐司氏
経営コミュニケーション学科学科長	金井 辰郎氏

7 ●特集1 座談会

14 ●お知らせ

15 ●活躍する工大人

日本住宅株式会社	阿部 春菜さん
株式会社ユーメディア	北村 一宏さん
アルパイン株式会社	大内 美紗さん
日本旅客鉄道株式会社	澤口 佳祐さん

17 ●学生会員の活躍

18 ●支部活動等報告

19 ●特集2 恩師からの便り

元教授 (知能エレクトロニクス科)	本多 直樹氏
名誉教授	今西 肇氏

21 ●高校大学連携事業

22 ●大学紹介

24 ●部活動からのお知らせ

25 ●学科だより

27 ●同窓会総会・懇親会のご案内

●「同窓会名簿」発刊のお知らせ

工大人 Vol.21 の発刊に 当たって



東北工業大学同窓会 会長
秋元 俊通 (あきもと としみち)
1975年 土木工学科卒業 (5回生・菊地研究室)
現在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ
代表取締役
土地家屋調査士 秋元俊通事務所
所長

会員の皆様のご健勝に心よりお慶び申し上げますと共に、日頃より当会へお寄せいただいておりますご理解とご協力に感謝申し上げます。

当同窓会機関誌「工大人 Vol.21」の発刊に際し、お寄せいただきました多くの関係者のご努力への感謝の心とともに、本誌を皆様にお送りできますことを嬉しく思っております。

昨年度は大学のトピックスとしては、理事長および学長の交代がありました。新理事長には樋口龍雄先生（工学博士）が、また新学長には同窓生である今野弘先生（土木工学科1回生・工学博士）ご就任され、新たな息吹をもたらしていただきました。また、建築学科創立50周年記念事業そして電子工学科・通信工学科卒業50回記念事業があり、大いに盛り上がりました。

今年度は、ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科（旧デザイン工学科）及び工学部都市マネジメント学科（旧土木工学科、旧建設システム工学科）の創立50周年記念事業が開催されます。更に明年4月にはライフデザイン学部が創立10周年を迎えます。同窓会としても、意義ある行事となりますよう大いに支援いたしたいと思っております。

同窓会のトピックスは、やっと「転職マッチング事業」（仮称）が端緒を開くことができました。職業安定法の壁があって職業紹介（斡旋）はいたしません、会員が経営または勤務されている会社や事業所の希望を受け、その概要を当会ホームページで紹介いたしております。



第32回定時総会・懇親会

ます。中央で磨いたノウハウを地方に移転したい、郷里の両親の介護をしたい、子供を故郷で育てたい、単に職業を転換したい、など様々な理由で転職を考えている会員がいらっしゃいますが、そういう人材を求めている企業や団体を検索されて、その会員にご相談ください。当会の人的理由で企業や団体の募集が遅れており、まだまだ情報数は少ない状況ですが、今後にご期待くださいますようお願い申し上げます。

また、一昨年の当会創立30周年記念事業の一環で開催した「関東圏の集い」が好評でしたので、そろそろ第2回目を企画したいと思っております。東北工業大学が、東北の人材の育成のみならず、全国の人材を育成する大学として大いに飛躍していただくためにも、大学の存在のアピールは同窓会の役目と認識して、それこそ同窓会のスローガンであります「新たなネットワークを目指して」の実践につながるものと考えております。

勿論、足元の新潟を含む東北・北海道地区の同窓会県・道支部や準支部の活動を積極的に応援してまいりますし、可愛い後輩である学生会員の学生生活、課外活動そして就職支援も欠かせないものであります。

今後とも皆様のご理解とご支援を当同窓会にお寄せいただけますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝と東北工業大学のご発展をお祈りさせていただきます、発刊の挨拶とさせていただきます。

平成29年8月吉日



創立30周年記念事業（植樹）

後援会は今、



東北工業大学後援会 会長
小泉 昭一 (こいずみ しょういち) 氏

3・11 そうあの日後援会理事会をパレスホテルで開催の予定でしたが、集合者が理事3名の方おりましたが当然中止、テレビの映像は何か日本沈没の映画の中にあるような光景でした。

あれから6年5ヶ月余り、復旧、復興は道半ば、まだ方向性も決まらない所もあると聞いております。そして、被災地からの入学生も沢山東北工業大学（以下本学）に入学して頂き本当に心より深く感謝と御礼を申し上げます。現地はボランティア・技術者等々復興支援に携わる人材が不足しているとも聞きます。後援会でも何か出来る事を考えて微力ではございますが、支援、後援をして参りたいと存じます。

以前、秋元同窓会会長に「同窓会と後援会は車の両輪、タックを組んで本学を支援・後援をしていきましょう！！後援会は本学の入り口から出口まで、同窓会は出口～」とお声をかけて頂きました。肝に銘じてこの理念を永続伝えて参りたいと存じます。皆様方もご存じのように本学は50周年を経過して更なる50年に向かって走り出しました。

後援会も更なる進化をする為に「過去は変える事は出来ない、前を変える事」の信条の下超少子高齢化時代に柔軟に対処、対応出来る施策・方策のご提案を申し上げ、微力ではありますが、皆様方のご指導、ご協力を賜りながら支援・後援をさせていただきます。

さて、後援会は簡単に言って「親の会」です。そして、後援会の活動は大きく分けて3点。

学生諸君・ご父母の皆様・そして、本学への支援・後援をする組織です。

ご父母の皆様には、後援会で一番大きな事業、毎年5～6月に開催される「地区別父母懇談会」を東北6県と新潟県にて開催されております。父母懇談会は当日お集まりのご父母の皆様方と先生方との個別懇談がメインで、その他大学の近況報告等々情報提供して頂く懇談会です。

また、10月には大学祭に合わせて「大学キャンパス見学」を土曜日は宮城県を除く東北5県と新潟県のご父母の皆様方に参加をして頂き、ご子弟の仙台宿掃除にお立ち寄りして欲しいと願って実施、宮城県は翌日の日曜日に実施しております。

大学への支援はいろいろありますが、ユニークなものでは長町キャンパス内で飼育しております「山羊」支援など、そして、今年が目玉政策は学生諸君への課外活動への支援・後援を特に野球部とサッカー部は特化して、そして、全団体のプロセスから結果迄を評価して表彰・報奨制度実施です。また学生諸君は朝食抜きが多いとの事、100円朝食セールの支援も試験的に実行致します。そして、就職率100%、ストレート卒業100%、とドロップアウト皆無に挑戦し続けて参りたいと存じます。学生諸君には「笑顔で、元気に、そして、楽しく」キャンパスへ。ご父母の皆様方には地区別父母懇談会・大学キャンパス見学会に是非ともご参画して頂けるようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



地区別父母懇談会



平成28年度大学祭

ごあいさつ

新生電気電子工学科、輝ける学科を目指して

電気電子工学科 学科長

丸山 次人 (まるやま つぎと) 氏

1952年 長野県生まれ
1980年3月 東北大学大学院博士課程修了、工学博士
1980年4月 株式会社富士通研究所に入社
2013年4月 東北工業大学教授 現在に至る
高齢者用電動アシストカートや目の不自由な方のガイドロボット、およびバイオリン演奏ロボットの研究に従事。



同窓生の皆様には常日頃よりご支援いただき、お陰様で昨年度6年連続、就職率100%を達成することができました。これも卒業生の皆様が各方面でご活躍されているためと感謝しております。この機会に近況をご報告させていただきます。

まず昨年11月、今年3月に50回生を社会に輩出するのを記念して、「電子通信テクノフォーラム」と「電子工学科と通信工学科の同窓生の集い」を開催しました。これまで両学科合せて約1万4千人の学生が卒業しており、同窓生・旧教職員・現教員総勢120余名が集い、親交を深め大変盛況でした。

つぎに、今年4月より本学科は、「電気電子工学科」に生まれ変わりました。エネルギーを支える「電気工学」と電子機器を支える「電子工学」とが、時代のニーズに合わせてどちらも学べるという特色を明確にするために変更しました。そして、電気電子工学を基盤とする3つの専門分野の系、「電子機械・ロボット系」、「医工学・バイオ系」、「光・情報デバイス系」を設置するとともに、カリキュラムも課題解決型科目を取り入れるなどの改訂を行いました。名称変更により、定員を超える132名の新生を迎えることができました。

さらに、魅力ある学科を目指して取り組んでいます。数年前より第一種/第二種電気工事士と基本情報技術者について、資格取得の特別講座を開講して支援しています。年々合格者が増え、資格を持つ学生は第一志望の会社に内定し、今年も8月時点で90%を超えました。また、一昨年度より実施中の研究者早期育成プログラム「創造ラボ」では、文科省主催のサイエンス・インカレに3件採択され、1件が奨励賞を受賞しました。この制度により、来年度は定員5名を超える大学院進学者が見込まれます。

今後も「学生が輝ける学科」を目指して、教員一同、学生の指導に努めてまいります。



電子通信テクノフォーラム

創造プロジェクトの発表会

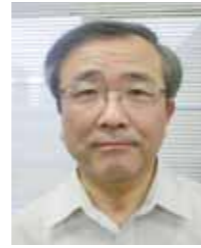
ごあいさつ

新たな50年に向かって

情報通信工学科 学科長

村岡 一信 (むらおか かずのぶ) 氏

2002年 通信工学科 教授
2004年 情報通信工学科 教授
2008年 情報通信工学科 学科長代理
2010年 情報通信工学科 学科長



本学科は今年の3月に50回目の卒業生を送り出すことができました。昨年の11月12日には50回生を記念して知能エレクトロニクス学科(現電気電子工学科)と合同で「電子・通信工学科の集い」を開催いたしました。当日は多数の同窓生の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。おかげさまで大変盛況でした。

さて、情報通信工学科の近況についてご報告したいと思います。今年は情報コースに井上研究室が発足しました。長年勤められた佐藤光男教授が3月に退職され、その後任として井上雅史准教授が4月に着任しております。井上先生の研究テーマは「人間の認知やコミュニケーションの理解と知的情報処理への応用」とのことで、最近話題の人工知能やビッグデータにも関係する大変興味深い研究をされています。

最近の入試状況につきましては、受験者数が定員の4倍以上となっており、今年は135名が入学しました。就職状況につきましても大変好調で、最近数年間の就職率は100%となっております。

教育の面では、本年度から新カリキュラムとなり、初年度教育の充実や電気系に導入科目を設けるなど、学生がよりスムーズに専門の勉強に入れるよう工夫しております。また、学生実験につきましても、年次進行で最新の実験項目に更新していく予定です。

資格取得のサポートも継続的に力を入れております。基本情報技術者試験対策としてIPA認定講座を開講し、修了試験に合格した学生は午前の試験が免除されますが、さらに試験直前に午後の試験の対策講座を実施し受験者の後押しをしております。この結果、昨年度は26名が合格しました。

以上の通り本学科は順調に発展しておりますが、現状に満足することなく次なる50年に向かって日々努力を重ねて行く所存です。今後とも同窓生の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



電子・通信工学科の集い

井上研究室

ごあいさつ

建築学科 50周年を振り返る

建築学科 学科長

石井 敏 (いしい さとし) 氏

2001年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 博士後期課程修了
2001年 東北工業大学工学部 建築学科 講師
2004年 東北工業大学助教授
2010年 東北工業大学教授
2014年 東北工業大学建築学科長 (現在に至る)



昨年度は建築学科50周年の一年でした。同窓会本部と各支部にはさまざまなご支援、ご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

2014年7月に準備会を結成、2015年5月に在仙の同窓生、教員、現役学生を交えた実行委員会を組織し、始動しました。50年を振り返り、新たな50年に向けてのスタートとすべく、学科(教員・学生)、卒業生、そして企業や社会とのつながりを再確認し、再構築することを目指しました。

2015年12月にプレイベントとして建築映画の上映会、2016年3月、5月、7月の3回にわたって学科に縁のある方々による講演会の開催、9月には在学生500名超が一同に会する機会をつくりました。学年を超えて50周年という時間を共有し、学科としての一体感を醸成したいと考えました。「5号館」の歴史を振り返ることで、自分たちの学び舎や耐震改修の歴史を知るよい機会になりました。

10月8日には「卒業生の集い」を開催。今野学長、秋元同窓会長をはじめ多くのご来賓のご出席を賜りました。全国から卒業生約300名、退職・現役教員や学生参加を含めて400名規模の盛大な会となりました。

7,500名超の卒業生の活躍を形にしたい、そしてこれからの学生につないでいきたいという主旨から「東北支える建設関連企業図鑑」を企画・刊行しました。260社を超える企業(卒業生)からご協力をいただきました。関連事業として12月には企業(卒業生)と学生、教員との交流会も開催しました。

当初の目的を達成し、さらに今後につながる多くの種を蒔くことができた一年でした。在生にとっは本学科で学んでいることに誇りを感じ、また将来の目標をつかむ機会になったものと思います。

あらたなエネルギーを蓄えての51年目。ここで学んで、そして過ごして良かった…、在生も卒業生も、そんな思いで一つになれる学科を目指して、さらに前進して参ります。



在生全員での記念撮影 (2016/9/20)

ごあいさつ

学科創設50周年を迎え、そして新たな一歩を

都市マネジメント学科 学科長

中山 正与 (なかやま まさと) 氏

1954年 山形県生まれ
1977年 工学部土木工学科卒業・助手
1992年 工学部土木工学科講師
1999年 工学部土木工学科助教授
2002年 工学部建設システム工学科(現都市マネジメント学科)教授 (現在に至る)



同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。3月に卒業生を送り出し(47回生)、そして4月には115名の新入生を迎えました。例年より入学生が増えたこともあり、実習や演習科目では大学院生や4年生にもアシスタントとして手伝っていただいております。

本学科は少人数制の必修科目である「CE進路セミナー」と「研修」を1年～4年まで連続して設けております。1年生のCE進路セミナーでは、恒例となっている「都市研究」を本年度も実施しました。研究室毎に分かれて市内を歩いて各種調査を行なったあと、昼からはユアスタに行ってサッカーを観戦しました。このCE進路セミナーを始め、他の授業におきましても、卒業生の方々から職場における最先端のお話を頂く機会を設けております。学生には良い刺激になり、学生の学ぶ意欲を高めていただいていると考えております。今後ともご協力をお願いいたします。

さて、都市マネジメント学科は、昭和42年に設立された土木工学科を母体としており、平成15年に建設システム工学科、平成23年に都市マネジメント学科と名称を変えて今日に至っております。卒業生の総数は6,686名であり、本年の4月で創立50周年を迎えました。これまで50年間にわたって、一貫して土木工学を学問の基盤とした学科として教育・研究を継続してこられたのも、ひとえに同窓生の皆様のご活躍とご支援があったからこそと感謝申し上げます。つきましては、創立50周年を祝い、今後のさらなる発展を願って記念誌の発行、講演会、祝賀会、50周年記念展示などの記念事業を実施する予定です。是非、皆様でお誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますよう心よりお待ち申し上げます。

最後になりますが、皆様の益々のご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



平成28年度卒業記念パーティー

ごあいさつ

2017年4月 新カリキュラムスタート

環境エネルギー学科 学科長

丸尾 容子 (まるお やすこ) 氏

1986年3月 東北大学大学院修士課程修了
1986年4月 株日本電信電話NTT研究所に入社
放射光分光分析、通信用プラスチック光部品製作、
気体計測用化学センサ、環境省ナノテクノロジー研究など
2003年9月 博士(工学) (東北大学) 取得
2013年4月 東北工業大学教授 現在に至る



当学科は工学部の他学科とは異なり発足から6年の新しい学科です。工学の学問領域において、日々変遷し、さらに変化が加速されている今日において新しい領域が求められていることが誕生の背景にあり、「環境エネルギー」の名前を聞いた時、それが今日及び将来の社会において求められている学問であることに疑問を持つ方はいらっしゃらないと思われます。ただあまりにも広い分野を包括するがゆえに、どこに軸足を置いて学びをしていいのかわからない学生が比較的多く見受けられました。そこで、この4月より始まった新カリキュラムにおいては順を追って学ぶプロセスを今まで以上に、より分かり易く致しました。具体的にはエネルギーコースにおいては物理を基礎とする電気エネルギーと化学を基礎とする熱エネルギーを中心とした各々の学びを、エコロジーコースにおいては生物を基礎とする環境保全と経済学の要素を取り入れた環境評価を中心とした各々の学びのステップを明確に致しました。また、授業の充実により危険物取扱者(甲種)の受験資格を得ることが出来るようになったとともに、これまでと同様ビオトープ管理士受験一部免除学科となっており、学生の資格取得の助けとなるように致しました。また、就職に関してはエネルギープラント系等への就職とともに建築物の空調関連への就職が堅調です。建造物はエネルギー消費量が思いの外多く、この分野に環境エネルギーの知識を持った人材が求められています。建築物の中身を作り建物を命を吹き込むのが環境エネルギーの仕事といったところでしょうか。学科では常に地域を支え、自分の夢を実現していく学生の育成を目標に教育を行なっております。今後とも同窓会の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



環境アセスメントについてのミニ講義 (オープンキャンパス)

ごあいさつ

“That's a good idea !”

クリエイティブデザイン学科 学科長

坂手 勇次 (さかて ゆうじ) 氏

1959年 生まれ
1982年 3月 京都工芸繊維大学 意匠工芸学科 卒業
1982年 4月 オムロン株式会社 入社
広報宣伝部、デザイン部、経営戦略部、技術本部企画室長、オムロンFAストア係代表取締役社長などを歴任
2013年 4月 本学教授 現在に至る



クリエイティブデザイン学科は2008年にスタートし、来年は10周年を迎えます。

1967年設置の工業意匠学科から数えると今年は50年目になり、それぞれ記念イベントを計画しております。本学におけるこれまでのデザイン教育の歴史と伝統を改めて振り返るとともに、同窓会員の皆様の輝かしい実績の積み重ねの賜物であることに深く感謝申し上げます。学科教員一同、これからの更なる学科の発展に向けて努力して参る所存ですので、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、本学科では今年の新入生から新カリキュラムが適用されました。“That's a good idea !”をスローガンに、「発想力を重視した新しいカリキュラムで、本質的なデザイン力を身につけ、社会を豊かにしていく人材を育てます」を目指しています。1~2年生ではアイデア発想力と表現技術力の基礎を養い、2年生の後期からは7分野の中から幾つかの専門的な学びを選択して経験し、学びながら自分の進路を考えることができる自由度の高い構成になっています。写真はその中の「アイデア基礎演習」と「表現技術」の授業の様子です。学科HPもリニューアルしましたので、詳しくはそちらをご覧ください。

本年度は、今年11月には設立50年記念行事を、来年2月には卒業展とOBOG会を開催する予定です。是非、皆様のご参加を賜り、親交を深めて頂ければと思います。

以上、近況報告ならびにご挨拶とさせていただきます。



アイデア基礎演習



表現技術

ごあいさつ

安全安心生活デザイン 学科の10年

安全安心生活デザイン学科 学科長

小山 祐司 (こやま ゆうじ) 氏

1955年 山形県生まれ
1978年 東北大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程満期退学
1984年 東北工業大学助手、講師、准教授、教授
2014年 3月から現職



本学科が設立されて、10年目になります。当初は、高校訪問・求人開拓の折り、長い学科名称を不思議がられ、学科の教育内容などを説明するのに苦労したことが思い出されます。しかし、学科設立4年後に発生した大震災以後は、「安全・安心」というキーワードが、現実味を帯びることとなりました。そして、学科の教職員が様々な現場に関わることとなり、自ずと広く認知されることになったと思います。高校生からも、非常時・平時の安全で安心な暮らし、震災復興への取り組みなどに関する問い合わせが多くなってきております。また、就職活動におきましても、建設系に限らず、求人が多く寄せられ就職率も良好であります。

現在でも、多くの教員が地域支援に関わり続けております。そして、教員が地域の現場に関わり続けていることが、学生諸君の学びに大きな影響を与えています。

非常時の暮らしは勿論、平時の暮らしの中にも安全で安心な暮らしをもたらし工夫を考える必要があることが、認識されて来ております。例えば、少子高齢化による社会構造の変容など、様々な問題に直面しています。一方で、私たちの地域には、共助の精神や自然・文化といった多くの資源が残されています。安全で安心な生活とは何かを再考し、力強くデザインすることが求められております。

学科創設の理念「生活者の視点に立つ安全で安心な生活デザイン」が、再認識されているのです。リアルな「地域」に視座を置いて、地域の変化を感じながら、「安全で安心な生活デザイン」づくりに取り組んでおります。そのことを通して、生きた人材を育て社会に貢献することが、学科の役割であると考えております。



地域住民交流支援活動



大野木工 (食と器のワークショップ)

ごあいさつ

工大の歴史に 新たな1ページを

経営コミュニケーション学科 学科長

金井 辰郎 (かない たつろう) 氏

1969年 新潟県生まれ
東北大学経済学部・同大学院経済学研究科修了
博士(経済学)
2008年よりライフデザイン学部経営コミュニケーション学科所属



経営コミュニケーション学科は、工大における唯一の文系学科として、2008年4月に設置された新しい学科です。<経営>という言葉がついているので、なんとなくお金儲けのことを研究する学科だと思われているようですが、本学科で学ぶどの学問も、人を出し抜いて自分だけが得をするということには興味がありません。そうではなく、人間と社会の在り方を考えながら、自分を含む社会全体を幸せにするにはどうすればよいかを考える、利他的で、人間中心の、practicalな学問が経営コミュニケーション学です。現代社会には、単一の専門分野で解決することのできない複雑な問題が多数あります。本学科では工学部・文学部・経済学部にもまたがる幅広い分野の専門知識・スキルを身につけ、即戦力として活躍できる人材を育てることを目指しています。

そのような本学科も、早いもので創設から10年がたとうとしています。工大53年の歴史からみればまだまだ短いものの、この間すでに362名(うち女子47名)の卒業生を輩出しました。彼らの多くは、大学時代に学んだ知識やスキルを活かして、営業、経理、総務、企画といった、企業を動かすことに直接かかわる分野で仕事をしています。工大OBの方々が経営・在職しておられる企業に就職した卒業生も多く、今後ますます工大のネットワークが深まり、広がっていくことを期待しています。これまで工大の先輩方が培ってこられた<知>と<人>のつながりのありがたさを認識しつつ、同時に、本学科で<人間・組織・社会>を学んだ新世代の卒業生が、工大の歴史に新たな1ページを付け加えてくれることを祈ります。今後よろしくご指導のほどお願い申し上げます。



選択科目「チャレンジアブロードプログラム」での一コマ。オーストラリアに行きます

工大就職率100%を目指して



本学では「就職率100%の実現」をスローガンに掲げ、各学科の就職支援委員会と就職委員会・キャリアサポート課が連携しながら学生の就職支援に取り組んできた成果として、最近の「週刊東洋経済」で全国理工系就職率ランキング第二位と紹介されました。

今回は送り手である大学側の取り組みと受け手である企業側の大学教育に求めることについて、また、キャリア教育とはをOB・OGに語っていただきました。

日時：平成29年7月26日
 於：一番町ロビー（本学サテライト教室）2階

資料①
 今年度の就職活動支援方針

- 学生一人ひとりが納得のいく進路を選び、そして社会に貢献できるような人材育
- 就職率100%を目指した就職支援事業の展開。

1年次～3年次前期
 段階を踏んで自己を見直し、将来を考える機会を作ることで有意義な学生生活を送ること、そして自分の生き方や進路の方向性をしっかり見極めることができるよう支援。

3年次後期～4年次
 就職活動に必要な情報を提供、

資料②
 就職先の業種割合（学科別）（平成28年度）

	電気電子 工学部	機械工学 部	建築学 部	都市マニ ピュレーション 工学部	環境工学 部	クリエイティブ デザイン学部	安全安心 工学部	工学部 （総合）	計 数
製造業	136	97	706	642	312	101	154	164	2,312
建設	543	285	185	190	587	182	161	288	2,321
エネルギー	9	7	15	12	17	6	0	6	78
金融	0	0	0	0	16	16	16	16	67
農林	64	77	73	89	132	122	123	142	622
流通	19	24	23	23	46	58	56	59	310
サービス	191	206	159	166	371	191	194	199	1,687
IT・情報	419	402	112	93	870	225	231	225	2,257
マスコミ	23	27	22	19	46	47	47	48	279
運輸・倉庫	38	22	23	23	60	47	49	58	320
官公庁・その他団体	30	28	38	39	81	37	37	44	394
医療福祉	7	6	4	4	19	38	39	33	151
教育・福祉	38	40	35	34	64	181	181	181	1,377
専門サービス	4	3	3	3	7	6	6	9	41
分類不明・未詳	10	10	10	10	10	10	10	10	80
計	1,861	1,254	1,407	1,218	1,872	1,270	1,224	1,480	11,914

- 参加者
 渡邊英明氏・仙建工業株式会社常務取締役
 前澤 博氏・太平電気株式会社社長
 野津 弘氏・野津デザイン計画工房代表取締役
 千葉 則行・本学就職委員長
 伊藤まり子・本学キャリアサポート課
 進行
 菊地 良覚・本学LD学部長
 佐藤 明・本学同窓会副会長

1. 工大の就職支援の方針と実績 「学科単位の就職あっせん」と進路指導員制

佐藤明（以下佐藤と略す） 本日はご出席ありがとうございました。歴史ある経済誌の「東洋経済」で昨年、本学が工学系大学では第2位の就職率だということが掲載されました。永年にわたる先生方の蓄積や、我々OBの活躍などが功を奏したのかなと思います。本日は、皆さまOBですが、送り手である大学側の立場と、受け手である企業側の立場として、お話いただければと思っております。進行を菊地さんをお願いしておりますので、よろしくお願いたします。

菊地良覚（以下菊地と略す） 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。今回の座談会のテーマは、東北工業大学（以下工大と略す）の就職に関してです。本学は「工大就職率100%」という、大きなスローガンを掲げています。最初に、まず工大の就職支援の方針等につきまして、本学就職委員長であります千葉委員長から報告していただきたいと思っております。

千葉則行（以下千葉と略す） 就職支援の基本的な一番の目標は、「学生一人ひとりが納得のいく進路を選び、社会に貢献できる人材育成の推進」となっており、その結果として「就職率100%」が達成されるということで、決して、100%という数字そのものを追いかけたいわけではないということ、誤解のないようお願いいたします。

資料①は毎年提出している平成29年度の「就職支援活動計画」です。そもそもこの「就職率100%

を目指して」というスローガンは平成18年に、当時の岩崎学長が掲げたスローガンでした。「就職させないで卒業させるのは気の毒ではないか」ということをスローガンに掲げたわけです。

時代背景的にはいわゆる「就職氷河期」に当たっていたんですが、特にリーマンショック直後には2010年度卒の大学生の就職率が全国的にも60.8%まで落ち込み、工大でも就職できない卒業生がたくさん出た時期でした。

それ以降、毎年、様々な施策をとってきました。その結果として、先ほど紹介がありましたが、平成25、26、27年度の3年間の平均就職率が96.9%になり、全国2位を獲得したということです。

今後、学生一人ひとりが納得できる進路を選び、またそういう道を獲得できる支援を、今後も展開していきたいというのが現状であります。

ただ単に就職先を斡旋しているだけでは、この数字にはなりません。具体的には、ポイントは2点あります。

1つは各学科に「就職支援委員会」が設置されており、学科の特色を生かした就職支援活動が行われやすい体制にある点です。2つめは、「進路指導員制度」です。平成22年ごろに沢田学長が提案して整備されました。これは非常に画期的なことでした。「教員一人ひとりが進路指導もやりなさい」と訴えたことなんです。それまで教員は、研究と教育をやっているだけでよかったのですが、それに加えて、担当する学生の進路指導も教員の任務として義務付けたものでした。

この2つが、うまくかみ合って、高い就職率を確保する大きな要因となっているのではないかと捉えています。

その他にキャリアサポート課はもちろんのこと、キャリアアドバイザーの方々にも就職指導をしていただいております。また阿部俊三先生には、参与という形で長年のご経験を生かした指導で協力してもらっております。

菊地 1年生から4年生までの各学年ごとに就職プログラムを持っていて、具体的な実践を行っているということ。工学系というのは、一般的に各先生方についてきている企業がいっぱいて、そこに頼っているということがありますが、本学の場合は、一人の先生に頼るのではなく、それを組織だって改変したと捉えていいですか？

千葉 そうですね。細かい話ですが、「あの先生は指導してくれる」が、「あの先生はしてくれない」とか、教員によっては苦手だったりする方もいます。それだと学生に不公平になってしまうので、学科の就職委員会を整備したということです。学生に公平に機会を与えるということ、組織だってやってい

るということです。
 菊地 教員側の負担も増えるので、そこをサポートするために就職指導専任者、キャリアアドバイザーなどを充足してきたという認識ですね。それを受けて、キャリアサポート課の伊藤まり子さんから、具体的な職種とか、業種のデータについてお話していただきます。



渡邊英明氏
 仙建工業株式会社常務取締役

伊藤まり子（以下伊藤と略す） 資料②「就職先の詳細業種割合」からは建設業からの求人が多くみえますが、建設業の設備工事業には通信インフラや電気設備といった業種の求人も含まれます。工業系求人傾向が強く、ここに本学の歴史を感じます。また、勤務地を見ますと宮城県・東北に就職しているのは40%、首都圏の方が少し多いです。3年時の進路希望調査では、学生の希望は6～7割が宮城県もしくは東北での就職を希望しますが、実際には工学部での実績は5割を切っています。ライフデザイン学部で、5割ちょっとというところです。

それと入学した1年生のアンケートでは、本学を希望した理由に「就職率が高い」という点を挙げる学生がおり、動機の2番目になっています。

本学では大学で身につけた技術を専門業種でいかにスキルアップしていくかを念頭に、業界や業種、職種を選択していく傾向がみられます。

2. 受け手となる企業側の最近の展望 「早く、長く、体験型プログラムの重要性」

菊地 本学とお付き合いの多い企業がたくさんありますが、本日は仙建工業株式会社常務取締役の渡邊英明氏、太平電気株式会社社長の前澤博氏、本学の非常勤講師でもあり、前佐藤総合計画東北事務所副所長で八木山の1号館、長町の4号館を設計した。現在野津デザイン計画工房代表の野津弘氏をお招きしております。最初にどういった会社なのか、業種、職種などをお話ししていただき、本学の学生がどのくらい採用されているのか、その活躍などをお話ししていただきたいと思っております。

渡邊英明（以下渡邊と略す） 私共の会社は創立が1942年で、今年で創立75周年になります。創立当時は、太平洋戦争に入っていた折で、国家総動員で軍需生産への傾注により物資材料等の入手も中々困難な状況であり、鉄道輸送力の必要性が叫ばれてい



前澤 博氏
太平電気株式会社社長

る状況だったようです。一方、軍関係の生産施設の工事発注も多くなってきており、建設業関係者は、これらに注力せざるを得なく、鉄道工事については中々手が回らない状況でした。そこで鉄道工事を円滑に進めるため、国策として鉄道指定請負人による特定会社として、全国

にあった9つの鉄道局を単位として各鉄工業会社を設立し、当社もその一つとして創立され、現在に至っております。当社は創立時、仙鉄工業株式会社という名称でした。当社は、現在、仙台市に本社を置き、主に青森、岩手、宮城、福島各県を4つの支店で運営しております。当社はJR東日本のパートナー会社で、土木、建築、軌道工事の総合建設業で、昨年の売上高は約430億円、東北の土木・建設業を営む建設会社としてはナンバーワンの会社です。この内、約7割がJR東日本からの発注によるものです。

当社では「人に、大地に、街に」を社のスローガンとして、鉄道関連の工事だけではなく、ホテル、福祉・医療施設、学校、マンション、道路、河川改修など幅広く街づくりなどに貢献しております。社員数は820名で、JRの出向者を除くと630名。その内約90名が工大出身者です。土木、建築学科の他、ライフデザイン学部出身者も活躍しています。

菊地 では次に、前澤さんをお願いします。

前澤博 (以下前澤と略す) 創業66年になる企業です。建設業の中の電気工事を営んでいる会社です。宮城県が本社ですが、秋田を除く東北5県に各支社・営業所があり、他に東京支社があります。年間施工高が約60億円です。

毎年事業方針を出して経営していますが、一番大事なコンセプトは、「地域に根差した企業として」です。一つはお客様に喜ばれる社会に貢献する、二つは環境の変化に対応し全社員が行動する、三つに強い会社組織を築く、ということを掲げています。

目標としては、一つはルールに従い固定費、つまり給与を確保しましょう、二つはお客様の立場で業務を見直しフローを改善しましょう、三つに限りなく発展する人材を育成しましょう、ということです。

中でも、「人材」が大事です。

各年度ごとに数値目標をたてておりますが、今は約66億ぐらいですが、目指すのは創立70周年台に70億という目標です。現在工大出身者は23名、大

変活躍をしています。

業界は、3・11の復興事業がピークアウトし、競争が激化しているという現状です。プラス、東京オリンピックの需要に、人が取られるのではないかと危機感を持っています。大分工期も遅れているので、心配しているところですよ。

仙台市は復興後のコンセプトが「新たな街づくり」という方針を掲げています。地下鉄東西線沿線にもない、荒井に団地が整備されたことや八木山近辺に象徴されるような、市の拠点になるようなものが、できていくと思いますね。

佐藤 宮城県も、来年度から「復興・再生期」を経て「発展期」に入ると言っていますが、かさ上げが終わって、そろそろいろんなものを新しく建てなくちゃならない時期なのに、東京オリンピックが迫っているということになっていきますね。

前澤 もうひとつ、自分の出た学校、世代とか年代も違いますが、同じ学舎にいたというコンセプトだけで集まるOB会組織というのは、「地域に根差した企業」という当社のコンセプト上からも、そこに重点を置くということが大事なのではないかと思っています。

最近「働き方改革」で、これまでアンタッチャブルだった運輸と建設にもメスを入れてきています。少子化時代になって、働く人を確保するためにも、今、力を入れているところですよ。これまで長時間労働も正直ありました。日建連が業界として、月2回は、土曜日を休日しようとして主張しています。

佐藤 土木系で働く女性は「ドボ(土木)女(ジョ)」と呼ばれているようですね。建設土木というと、学生にとっては敬遠しがちな業界で、苦戦していたこともありましたが、働き方が変わってくると、また未来が明るくなりますね。

菊地 野津さんは、設計が専門です。次は建築学科、安全安心生活デザイン学科の講師として来ていただいている野津さんからお願いします。傾向として、設計を希望する学生は、どういう風に設計を捉えているかということと、これからの学生にどんなアドバイスをしたいか、お聞きしたいと思います。

野津弘 (以下、野津と省略) 設計がそこそこできるのは、150人中20~30人ぐらいの割合です。卒業しても全員が設計につくわけではないというのが現状です。本学の設計の教育というのが、ちょっと薄いと感じています。図面を描くという技術的なことより「デザインマインドを育てる」という方向にシフトしていかないと、間口が広がらないと考えています。デザインとは何かというところを深く教えてあげられるカリキュラムなり、教育体制を整えることによって、設計事務所とかゼネコン設計部とかしか考えられなかったものが、もっと広い間口が確

保できるのではないかと考えています。

菊地 今、マインドの話が出てきたのですが、電子工学を卒業した前澤さんはいかがですか。

前澤 私どもでは少子化のこともありまして、学部学科にこだわりません。大事なのはやはり「心」です。電気工事を選んだという「心」を大事にしてもらいたいと思っています。

菊地 ということは、本学の育てる中身を考えていけないといけないことになります。企業側と連携し、中身を充実させるということが大事です。ここで本学の就職インターンシップについてお話しいただけますか。



野津 弘氏
野津デザイン計画工房代表取締役

千葉 本学では毎年夏休みを利用したインターンシップを学生に斡旋しております。インターンシップの期間は1週間から10日程度を推奨しており、企業様からの希望と学生の希望とのマッチング作業、マナー研修等を行なった上でインターンシップに参加させていま

す。参加者は毎年100名ほどで、3年生がほとんどです。この学年は全体で700名くらいですから、参加率は約15%といったところです。関東圏の大学では3割~4割のようですので、将来的には200、300名の参加者にしたいと思っています。

菊地 ある企業は1か月くらい欲しいといっているところもあります。インターンシップって、「就業体験」というのが和訳ですが、ロングレンジで半年くらいありますから、就業体験としては企画提案なども一緒にやれたらいいのですが。

千葉 そうしたお話はよく聞きますが、正課授業との調整が困難であり、結果として実現できないという状況です。

渡邊 日々の業務の中で受け入れるので、業務の調整も必要ですし、受入れ数も検討しなければならないですね。当社にはワンデーもありますし1週間などもあります。ただ仙台、東北というエリアを考えると、震災復興需要も落ち着いてきて、建設業全体を考えてみますと、厳しい環境が続くと思われます。学生が社会に出てから、初めて企業と向き合うというのは遅いと思うんですね。3年生ではなく1、2年生の頃から、現地での体験をもっと早期にして、社会に関心を持って欲しいです。面接をすると、社

会への関心が薄いと感じます。そういったことで、建設業への希望が少なくなっているのかなと思います。

「モノづくり」の面白さを教えたいですね。学生や大学に期待したいのは「体験型学習の場」を作りたいということです。当社では、実物大のモックアップ設備を活用して配筋や型枠の検査をしたり、仕上げ面なども考慮した検査等も行っています。もっと言わせていただければ、私たちが若い頃にやった模型作りの楽しさなどを、バーチャルでなく、実物でもっと教えてあげたいですね。

菊地 コンクリートとモルタルの違いもわからなかったりしますから。

渡邊 私たちの現場では、コンクリート打設時には、生コンを握らせてスランプの状況を感じ取らせるようなことも行っています。このことにより、スランプが20とか18とか、次第にその感触をつかんで貰えると思っています。品質及び安全の確保に繋がることであり、そういうことを学生に教えていく必要がありますね。

野津 SD学科で住まいの施工も教えていますが、バーチャルでは教えられないんですよ。基本的にモノづくりとは手です。手とか耳とか目とか、五感が発達しないと、いいものは作れないんですよ。だから、そこに即した教育をしたいと思うんですね。



前澤 当社ではインターンシップが2日間、2名、8月28・29日に実施されます。2日間ですから、業界からすると「見学会」でしかありません。午前中は会社の概要、午後はCADなどを見てもらって、次の日、現場にヘルメットをかぶって入ってもらいますが、雰囲気を外から眺めるだけの現場視察です。第三者は学生だけでなく誰でも入れませ



千葉 則行
本学就職委員長

ん。ルールで場内に入れないんですね。そういう意味では限界があります。

菊地 「体験型プログラム」のレベルアップをしていかなければいけない、ということですかね。

野津 大手の建設会社では、子供たちに「父親の職場見学」というのをやっています。あれはインターンシップなんですね。それを考えれば、例えば八木山の小学生を工大OBの職場に見学に行かせたり、小学生、中学生からやっていくというのも手です。本学においても1年生は1日、2年生は1週間。1日に3社ぐらい体験し、それを積み重ねていって、職業意識を高めていく、小・中・高生も、そこに引っ張り込むという形で、畑をもっと早くから耕すことも必要なと思います。

菊地 企業と教員が連携できる、それができない教員もいます。大学としてどうやるのかという課題も一方であるんですね。

渡邊 大学での講義・講座に企業人を招聘する機会をもう少し増やしてはどうでしょうか。勿論、OB、OGは必要不可欠だと思っていますので、場合によっては官公庁に勤務の方にも、講師として講座を正規に設けることも必要なのでは。そうすることで、学生も早くから自分の目指す方向性を定めることができるのではないのでしょうか。早い時期から受動型から能動型に切り替える機会を増やしていくことだと思います。

菊地 本学の歴史的な特徴である「実学重視」を、どう具現化するのかということですね。カリキュラムの中にどう実践プログラムを実現するかです。



伊藤 まり子
本学キャリアサポート課

野津 建築学科は3年生で「プロフェッショナル論」というのをやっています。それはいろんな業種のOBを15名、オムニバスで呼んできて話をしてもらっています。施工の人、設備会社の人、教員も、設計事務所の人もいる、OBの方々がどういう職業に関わっているのか、話をするんです。これで結構、職業に関する意識が高まっているようです。これを3年生からじゃなくて、1年生から少しずつやるという方法はあるかと思っています。

3. 企業現場からの視点と要望 「読解力、文章力、コミュニケーション能力が欲しい」

菊地 採用している企業側が重視しているポイント、本学への要望など、ありますでしょうか。

渡邊 学生の方そして大学に期待したいことは、いくつかありますが今日は2つほど話しをします。建設業界は若者離れというか、かなり数が減少していきと言われ、それだけ厳しい環境にあるとも言えるし、卒業する学生は自分の進路が定まっていまま会社に入ってくるという現象もあって、まだまだ楽観視できない現状です。学業の成績はもとよりだとして、困難にあっても、そこを乗り越えていく力は、やっぱり「仕事への熱意」だと思えます。私自身としては、自分の殻を打ち破ってレベルアップしていく力を求めたいと思っていますし、面接するときは、そういうことも含めてお話ししています。もっと言えば、会社を踏み台にしてでも世界に羽ばたくぐらいの気概が欲しいですね。

2つ目は、理系の大学ですが、文章力をもっと磨いてほしいなと思っているんですよ。図面を描くにしてもCADとかBIMとかで、いくらでも綺麗に描けます。しかし大事なことは、その有用性をどう伝えていけるか、それができないんですね。綺麗なだけでは絵に描いた餅で、どういう想いで描いたか、本当に自分の想い、魂が入っているのかを、受け手側に伝える文章力に磨きをかけて欲しいなと思います。そのためにも、大学側でもプロフェッショナルな方を招いて、教えて欲しいし、そこをちゃんとしないと、本人も面白くないし、企業側も良くなっていけないんじゃないかなと思います。

野津 今の学生は本を読まなくなっています。そこが欠点になっているので、本を読んで読解力をつける、というのが大事だなと思っています。私は大学院の講義の中で、文庫本を買ってあげて、課題として読ませています。読んでいかに自分なりに消化して、話をまとめることができるかというのは、工学系の学生でも絶対的に必要なんですね。

菊地 読み書きソロバンの話ですが、数学を扱う、書く力、読む力がないといけないというのは、大学の教育ではなく、幼児からの積み上げて、常にやっておかなければならない、習慣化しなければなりません。人に対し、いかにプレゼンテーションをやっているか、これもトレーニングですから、常にやってなくちゃならないですね。だからキャリア支援の中で、プレゼンテーションをもっとやるということも必要かもしれませんね。

伊藤 本学に在籍している学生に対して就職を斡旋することについては、厚生労働省から無料職業紹介事業の許可をとっています。卒業して3年以内の既卒者に対しても若年者雇用対策の一環として窓口に対応しています。この点ではキャリア教育というより、就職課としての業務が多くなります。1～3年

で実施している適性検査や各学科で社会人を招聘する際の一部経費負担など現在行っているキャリア教育を正課科目としてどう組むこんでいけるか検討していただければと思います。

菊地 実践を通して国語力とか英語力を磨くとか、今教養でやっている中に、キャリア教育論とかを組み込むとか、いうやり方もできるのでは。統合するとか、混ぜて料理するようなことができないかなということですか。

伊藤 学生にはインターンシップだけではなく、低年次から親やアルバイト先の大人だけじゃなく、いろんな大人と接触する機会を自分で作って、踏み込んでいこうと話しています。自分で機会をつくって試行錯誤する力を身に付けてくださいと言っていますが、機会を作れない、自分からそういった機会に飛び込むには、どうしたらいいか、そこをキャリア教育論でやる必要があるのではないかと考えています。

菊地 いい提言だと思います。正課でプログラムとして作る必要があるんじゃないでしょうか。

千葉 そうですね、新カリキュラムの中では「ビジネスマナー」など幾つか科目が新設されました。インターンシップには積極的に参加して欲しいんですが、正課のプログラムとしては前にも述べたように、時間割の編成上なかなか難しいです。従来から、セミナーの授業で先輩をお招きして、携わっている事業内容、職場での体験談などを講演してもらっています。

野津 先ほどの建築学科の「プロフェッショナル論」の講義の中で、人によっては、建築家であっても、社会人としてのマナーとか、組織論とか、そういう話をしている人もいます。大きな会社の人は、大きな組織の中で仕事をしていくというのはどういうことなのか、ということを説明したりしていますね。

千葉 先ほど言っていた「熱意」とか「読解力」についてですが、経済産業省が社会人基礎力（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力）、すなわち職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として、2006年から提唱しています。しかし、正課授業ではなかなかカバーしづらいものです。インターンシップ（就業体験）の必要性というのが、ここから出てきたのではないかと思います。我々はこれらの能力をいかに育ませるか、それが大きな課題となっています。

菊地 企業アンケートでも、企業側が学生に求めることって、「コミュニケーション力」が一番なんですね。

千葉 そうなんですね。それは結局、会話力、文章

力でもあると思うんです。それも相手と話したいという熱意があることが必要で、「コミュニケーション力」といっても、いろんな意味で中身は深い話なんですね。だから先ほどの渡邊さんの言葉に集約されるんですね。

野津 だから人の話を聞くというのは読解力なんですよ。ちゃんと人の話を聞く、理解するということがないとコミュニケーション力って、出てこないんですね。言ってることが分からなければ、コミュニケーションができないわけですから。

千葉 我々教員と話すと違って、学生がOBと話す時には将来お世話になるかもしれないと思うのか、緊張感をもって話している場面が多く見られます。そこがいいところですね。就職活動の開始前に模擬面接を行います。当初は全く会話が成立しない学生も多くみられますが、就職活動が本格化する頃には見違えるほどになる学生もいます。面接は「尋問」じゃないんだと気づいてくれればしめたものなんですがね。

伊藤 学生にとってOBだと相談しやすく、アドバイスを受ける姿勢など社会人として育ちやすい環境があると思います。OBとういことで繋がりが安心感を与えているんだと思います。その点は一般的なリクルーターとの大きな違いで、社会人との距離感、日々のことを話してもらっています。学生たちが自分の先に、こういう世界が待っているんだということを知ってもらおう。そこで自分の将来が形作られていくことを期待してやっているというのが現状です。

千葉 インターンシップも大事ですが、本学での授業、合同企業説明会、あるいは現場見学会などで先輩たちとコンタクトによって、自分の将来がイメージしやすくなる、そして同時に就職意識が高まってくるようです。そういう意味で先輩というのはありがたいことだと思います。

前澤 単位的なインターンシップでは身に付かないですね。講義で眠っていたり、帽子をかぶったままだったり、おしゃべりを止めなかったり、授業としては成り立っているかもしれないけど、社会では通じません。「知識はあるが知恵がない」という卒業生が多いということですね。それで言うんです。大人社会で可愛がってもらおう基本は、「あいさつ」



菊地 良覺
本学LD学部長

と「返事」が大事だと言っています。スマホ社会からは、これは出てきません。

菊地 インターンシップに関しては、本学は早くから実施しています。確か平成18年以前ぐらいから。企業合同説明会を単独でやっているのも、先行していたんです。教養の中に「キャリア教育論」みたいな実践的なオープンプログラムを混ぜてしまう必要があるかなと思います。

渡邊 入社してからも同様のことはあります。「聴く」、聞くじゃなく聴くということ、本当にちゃんと耳を傾けて聴いているのかということなんです。ちゃんと聴いていれば答えも返せるんですが、半分他のことを考えているのではないのかとを感じる時があります。

この場合、大学側でどこまでサポート出来るのかは、難しいとは思いますが…。自分でやることは本を読んだりして修練していくことですが、それを基に対話、会話をどうしていくかが大事です。それがうまくできる人は伸びていくと思います。ですので、そのようなことをどこでどうやっていくのか、或いは、対話力・会話力をどう身につけていくかなど、そういうところに絞った講義の一コマを作ってもいいのではないのでしょうか。

前澤 面接なんかでも、セオリー通りの質問には、スラスラ応えられますが、「大学のコンセプトは何ですか？」みたいな質問をすると、とっさにわけわかんなくなる。まだ何をしたいかわかってないうちに卒業しているのではと、思ってしまう。とりあえず、学校を卒業してしまったと。もっと大学で、そのあたりを教育して欲しいですね。モノづくりの会社だから、モノづくりを楽しんで欲しいと言っています。

4. 企業側と大学側との連携 「OBの積極的活用で就職率100%を達成」

菊地 神経内科が流行っているそうです。心の病、切り替えができない、抜けられない人がいるそうです。心の問題、マインドをどうやって鍛えていくかという話ですが。



佐藤 明
本学同窓会副会長

千葉 就職支援においても、最近の話題として発達障害（コミュニケーション能力不足等）をもつ学生が社会問題になりつつあります。発達

障害に対するさまざまな支援整備の機運が出ていますが、実際にはまだまだ大学による支援体制がしっかり整っているとは言えないのが実情です。こうした学生が就職先を見つけるためには、まず自分が出来ることと苦手なことを明確にして、自分が出来ることを活かせる仕事を探すという手順が必要になります。ご父母の中には、大企業に就職させたいと考える人もいますが、仕事内容が合っていないとすぐに離職する可能性は高いものとなります。こうしたケースでは本人が出来ることを基準に業種や職種を絞って指導していく方が賢明だと言えます。

就職率100%を達成する上で、「キャリア教育」の内容充実もさる事ながら、このような問題の解決を図ることも不可欠です。ご父母には就職の現況や支援体制を理解いただくとともに、三者間の意思疎通を図り、学生の希望する進路を実現するための協力体制をより充実させることが大事です。また同窓生の皆様からは、実際の仕事でのさまざまな経験談、やりがいなどを聞かせ頂くことは学生にとって将来を考える貴重な機会となります。今後とも同窓生の皆様も後輩の進路・就職支援において一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

菊地 学生、OB、会社の3すくみ、父兄を入れて四位一体、さらに高校も含めて取り組んでいきたいところです。ある高校では、何故、大人になっても数学が必要なのか、語ってくれという注文があります。実学を通せば一発でわかることです。本科の中で、物理や数学がなぜ必要かを語ってくれる人が欲しいといわれます。やはり、小中学校からそういう教育をやらないといけないのかなと思います。

野津 郡山の日大工学部なんかでも、小学生を対象にやっていますね。

千葉 毎年東北大学を会場とした「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ」が開催されていますが、大盛況のようです。本学も参加していますが。

菊地 本学にも小中学生が職場体験で来ているんです。結論的には4者連携で、実践的なキャリア教育メニューを構築していく。そこにOBが入っていくことが必要だということで、メたいと思います。今日はありがとうございました。

● お知らせ ●

OB企業とOBの求職者を結ぶ企業紹介サイト公開 〈掲載する企業様を募集しています〉

昨年より、同窓会として卒業生への大きな支援の役割を果たす企画として進めていた「同窓生が勤める企業紹介 ~求める人材~」を7月から新たなコンテンツとして同窓会ホームページに立ち上げました。

掲載企業の「当社の強み」や「今後求める人材と資格者」そして「OB・OG一覧」の情報を開示して

おり、転職を考えている同窓生求職者の情報の一助になれば幸いです。

また、掲載する企業様の掲載料金は発生せず、OB・OGが勤めていればどなたでも利用が出来ます。下記に登録マニュアルを掲載しましたので参考にしてください。

皆様の参加をお待ちしております。

企業紹介登録マニュアル

同窓生が勤める企業紹介: <http://koudai-dousoukai.net/corporate2>



入力フォームが表示されます。



確認画面が表示されます。



無事送信されると下記のような画面になります。



研究室の先生の影響を受けて、設計の道へ。
卒業研究をライフワークとして続けたい。

〈ライフデザイン学部〉安全安心生活デザイン学科

日本住宅 株式会社
〈建築業（集合住宅・戸建住宅・公共施設ほか）〉

設計
阿部 春菜さん / 2016年3月卒業

大学の支援をいただきながら、積極的に資格取得。
現在、アパート・集合住宅の図面設計や申請書類の作成を担当しています。“設計”という仕事を強く意識するようになったのは、研究室に入ってから。建築分野を専門とする先生の下で学んだことが大きかったように思います。大学は、資格取得を支援する体制も充実しており（特別講座など）、私も在学中に二つの資格を手にし、就活に備えました。

社会に出てからも勉強。早く頼られる存在に。
卒業研究では、まちのフィールドワークと住民の方への聞き取りや古写真、生活誌などを通じて、“場所の記憶”をたどる試みに挑戦しました。この研究は、今後も仕事と両立させながらライフワークとして続け、いつか卒業論文の続編として、まとめることができたらと考えています。業務面では、しっかり知識を蓄えて、早く特殊案件などを手がけられるようになりたいですね。



そこに別の可能性はないのか？
自分の見方・認識を客観視することから始めています。

〈ライフデザイン学部〉クリエイティブデザイン学科

株式会社 ユーメディア
〈コミュニケーション支援（広告・印刷）〉

営業・企画・ディレクション
北村 一宏さん / 2012年3月卒業

きっかけはイベント。企業研究で深まった興味。
イベントをきっかけに知った当社の存在。自社媒体出版だけではなく、広報や販売促進、人材採用PRなど、コミュニケーションに関わる多彩な支援をしていることを知り、さらに興味を深めました。私は高校・大学と音楽活動（レーベルに所属）をしていました。将来的には、地域が元気になるような「食と音楽」を融合したイベントなどを企画してみたいですね。

お客さまと制作者、双方の立場から考える。
大学で産学連携のアプリ開発に参画するうち、発想を方向付け、ディレクションする仕事が面白いと思うように。現在は、お客さまとデザイナーを橋渡しする立場で、新しい価値の創造に取り組んでいます。多面的・多角的に考察するといった大学での学びが生きています。自分の見方や認識をクールに客観的に眺めることは、営業職には欠かせない視点だと思います。



開発者のひとりとして、
市場で高い評価を得ている製品に誇りを持っています。

〈工学部〉電気電子工学科

アルパイン 株式会社
〈車載電装品の設計、ソフトウェア開発〉

技術職（ソフトウェア開発）
大内 美紗さん / 2012年3月卒業

実験を通じて、興味の幅を広げる。
高校では放送部に所属し、録音や編集などを担当していました。「音響が好きならば、電気回路の勉強をしてみても」とアドバイスされ、知能エレクトロニクス学科（現：電気電子工学科）を専攻しました。学科では、マイコンを開発する実験科目があり、設計・プログラム通りに動作する電子機器に新たに興味を抱きました。当社の事業内容は「音響+マイコン+自動車」という私が興味を持っているものばかりで、巡りあわせを感じたものです。

お客さまに評価され、愛される製品づくりを。
現在は、カーオーディオ機器の設計からプログラミング、単体機能テストまで担当しています。以前、カー用品店でスタッフの方から「イチオシ」として、偶然にも私が手がけた機種を紹介されたことがありました。お客さまから愛される製品づくりに携われることは、開発者として何よりもうれしいです。
※知能エレクトロニクス学科（現：電気電子工学科）卒業



レールを見守る、縁の下の力持ち。
安全で安定的な鉄道輸送を支える。

〈工学部〉都市マネジメント学科

東日本旅客鉄道 株式会社（JR東日本）
〈旅客鉄道会社〉

技術職
澤口 佳祐さん / 2016年3月卒業

チームの力で遂行していく業務。早く頼られる存在に。
入社後、半年間の研修を終え、線路の保守・修繕にかかわる仕事に携わっています。保線は安全で安定した鉄道輸送に欠かせない業務ですが、ひとりで成せるわけではなく、組織・チームの力で遂行していくものです。これから一日一日を大切に積み上げて、専門的知識と技術を高め、「〇〇のことなら澤口に」と頼られる存在になりたいと思っています。

実学志向の有益な学びが、現在につながる。
大学（研究室）では、さまざまな建設現場を見学する機会に恵まれました。教科書などを通じた机上の学習だけではなく、実際にどのように現場が動いているのかを知ることができたのは、とても有意義な学びと経験でした。現在の保線業務は、一から学ばなければならないことが多いですが、東北工業大学で培った工学的知識が基盤になっていると感じています。



学生会員の活躍

【サッカー部】

4月からサッカー部が大学の強化指定を受け、同部の監督に就任させていただきました。新たな挑戦の機会を与えていただき、深く感謝するとともに、その責任の重さを日々感じながら指導に励んでおります。『一部リーグ昇格』を目標としてスタートし、5か月が経とうとしています。これまで東北地区大学サッカー選手権大会【兼 総理大臣杯東北地区予選】(5月)、東北地区大学総体(6月)、7月には東北地区大学サッカーリーグが開幕し、第9節までを消化しました。戦績は6勝1敗1分で、一部リーグへの昇格が期待できる位置にあります。

現代サッカーのトレンドは、攻守にわたり人とボールが絶え間なく動き続ける、『ハードワーク』をしなければいけません。しかし、トレーニングを開始した当初、選手たちはハードワークをこなすだけに必要な要素は何一つ持ち合わせていませんでした。高強度の走り込みや筋力トレーニングを課し、ボールを使ったトレーニングでも高強度かつ高精度で人とボールが動くメニューを多く取り入れました。クレーグラウンドではイレギュラーが多く、集中が切れ、モチベーションの低下につながりますが、人工芝のグラウンドを作っていただいたことで解消され、選手たちの集中力とモチベーションを高く維

持することが可能となり、高いトレーニング効果を生み出しています。この大学の取り組みにも感謝しています。

課題はまだまだ山積みですが、与えていただいた環境を有効に活かし、プレーの高精度化とスピードアップ、フィジカルコンタクトにおいて相手を圧倒するパワーアップに取り組み、『一部昇格』を達成したいと思います。

最後にユニフォームを新調していただき、ありがとうございました。これをみなさまの期待の大きさととらえ、今後の活動の糧としてチーム強化に努めていきたいと思っています。

(サッカー部監督 草野修治)



【卓球部】

この度は、東北工業大学同窓会より卓球台を3台援助して下さり、誠にありがとうございました。記して厚く御礼申し上げます。

さて、本学卓球部は昨年創部50周年を迎えました。半世紀にわたる歴史のなかでは部員が少ない時もあったようですが、近年は毎年30人前後の部員がいるため安定した部活動を行うことができます。練習は週4日ですが、2011年からは火曜と金曜にOBコーチや卒業生、一般市民を招いて20~30名で合同練習をしています。OBコーチが現役の時(昭和63年)には部員が2名だけで廃部も考えたと言っていました。体育館全面に12台設置した今の風景には感慨深いものを感じています。このような充実した練習環境の成果もあり、先の東北学生春季リーグ戦では6年ぶりに4部優勝を果たし3部昇格と優秀選手賞を受賞しました。現在は秋季リーグ戦と北海道科学大学との定期戦に向けて日々練習に勤しんでいます。

また、部内外の交流を広げようとの趣旨から、本学「学生自主企画」の支援を受け「工大カップ卓球大会」を年2回企画・開催しています。ひとつは高校大会で、2回目となる今年は7月4日に開催し8高校から70人が参戦しました。我われ工大卓球部

もゲスト参戦し、楽しく真剣に試合をさせていただきました。大会中、高校生と歓談する部員を見、とても嬉しく思いました。もうひとつは忘年大会で、5回目となる今年は12月30日に予定しています。下は小学生から上は70代まで老若男女を問わず毎年約100名が参戦してくれます。卓球部のOB・OGはぜひご参加下さい！

今後は日々の練習のなかで切磋琢磨することは当然ですが、同時に同窓生や市民との交流をとらえて工大ファンを増やしていければ、と思っています。

〔東北工大卓球部

<https://www.facebook.com/titttc/>〕



支部活動等報告

【青森支部】

平成29年度 青森県支部活動報告

向井 務(むかい つとむ)氏
1982年 土木工学科卒業(12回生・今野研究室)
現在 株式会社タケナカ

東北工業大学同窓会の皆様方においては、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

また我が母校があります仙台での今夏の長雨の影響にも胸を痛めている次第であります。

さて平成29年度は青森県支部での同窓会開催の年であります。雪残る3月より幹事会を行い、県内160名への案内状の送付、講演会、及び同窓会の内容の精査等、準備を進めてまいりました。



6月13日土曜日17時より、渡邊浩文副学長、石井敏工学部建築学科長、不破正仁建築学科講師のお三方を講師に迎えて「私が携わったプロジェクト活動」というテーマで、大学で取り組んでいる学生参画型プロジェクトなどの内容で講演していただきました。

講演終了後、18時より青森県支部同窓会の開催を無事に迎える運びとなりました。

今野東北工業大学学長、小泉昭一後援会会長、西條芳郎同窓会副会長をまじえて総勢59名での同窓会となりました。

また今年同窓会北海道支部より山口支部長、奥塚事務局長、川村様の参加もあり、近況報告・歓談・名刺交換・情報交換、クイズ大会など盛り上がりしました。



(北海道支部)

当初予定時刻を大きくオーバーし懐かしい顔ぶれとの再会に有意義な時間を過ごすことが出来、皆さんとても楽しそうでした。

同窓会会員と関係各位の方々には遠方よりの出席をいただきまして誠にありがとうございました。

2年後にはまた元気な姿でお会いしましょう。



【岩手北上支部】

同窓会支部活動報告

菅原 克郎(すがわら かつろう)氏
1971年 土木工学科卒業(第1回生・高橋彦人研究室)
現在 岩手技能講習センター講師(車両系、玉掛け)
障害者施設とばせ園(送迎担当)

平成29年(2017年)3月17日(金)、岩手北上支部の同窓会が北上駅前近くのパークホテルで開催されました。当日は東北工業大学の卒業式でもあり大変ご多忙の中を今野学長、秋元同窓会長、高橋正行事務長、高橋信行氏4名のご臨席を賜り和やかな中にも様々な意見交換等があり大変有意義な同窓会でした。特に、学長と直接話す機会のあったことは地方の支部としては大変嬉しい事でした。

振り返れば、昭和55年の夏に建築1回生の2人(小原志朗氏、村井好司氏)と私の3人で旅館の1室20畳ほどの座敷の真ん中に料理の膳を突き合わせ遅くまで飲み会をした事がそもそもそれが北上支部の第1回の同窓会だったのではないかと考えています。37年も過ぎた今日、支部会員は50名ほどに増えましたが出席人数は50%程度です。支部同窓会の定例会は毎年、2月に開催されますがその席の冒頭には会員の「還暦祝いの会」が催されます。この催しは10年ほど前から始まりましたが次々と還暦を向える会員がありその日の同窓会是一段と目出たい宴会になり会員みんなの笑顔、笑顔の同窓会になります。又私は以前より「いつか学長に来て頂きたいものだ」と思って居りましたが今回その「思い」が叶い誠に嬉しく思っております。

今年は土木工学科創設50周年にあたり第1回生として喜んで記念事業に参加させていただきたく思っております。今後とも東北工業大学の益々のご発展をご祈念申し上げます。



工大の思い出と近況

知能エレクトロニクス学科

本多 直樹 (ほんだ なおき) 氏

1975年東北大学大学院理学研究科修士課程修了。
アイワ㈱、ソニー㈱、ソニーマグネトロダクツ㈱、
秋田県高度技術研究所を経て、
2008年東北工業大学工学部知能エレクトロニクス学科
教授、2015年同学科客員教員、
2017年同学部電気電子工学科非常勤講師、客員研究員
東北工業大学名誉教授、博士(情報科学)



今年の3月で知能エレクトロニクス学科を退職したところで、さらに非常勤講師と客員研究員をしている身ですので半分は現役気分が残っています。まだこの欄に寄稿させていただくには気が引けます。工大では短いようでしたが、9年もの間大学教員として仕事をすることができました。その前は民間企業と地方公設研究所で研究開発の仕事をしてきましたので、大学ではその経験を活かしたように思います。また丁度、ずっと携わってきた岩崎名誉理事長の発明された「垂直磁気記録」が実用化され、それが現代の高度情報化社会の基盤として普及する様を見ながら、それを学生に伝えることができたことも大きな喜びです。ただ、大学に来て驚いたことは、大学ではエレクトロニクスが学生にはあまり人気なくなっていたことです。学生はバブル期以降の産業界、特に家電業界の苦しい状況を鋭く感じ取ったように思います。しかし、今でもエレクトロニクスは産業の基盤技術です。情報技術はエレクトロニクスが支えています。いま最も元気な産業の自動車さえ、エレクトロニクス化がその活力の源泉となっています。もう50年も前にある高名な技術評論家が、自動車は技術的には成熟産業であり、もはや大きな発展は望めないと述べていました。小生も納得したのですが、その後の展開は180度異なりました。AIも加わり、現代の自動車は最先端のロボットに変貌しつつあります。講義やゼミではこのことを伝えることに努力しました。ただ、今の学生さんには興味を持ってもらうには大きな工夫が必要なこと痛感しました。時折、研究室の卒業生から便りをもらうことがありますが、学生時代とは違い社会に出ると皆よく頑張っているようです。大変うれしく思います。日本では大学進学率が高く、学生の質が低下しているとの議論もありますが、それだけ多くの人が大学教育を受けていることになりま

す。学教育をしっかりと身に付けた人材が多数輩出されることになれば、日本の産業界は今以上に活性化されるはずで

す。工大卒業生が社会で活躍することが、東北のみならず日本の産業界をレベルアップすることになると思います。退職後は母親の面倒を見るために郷里の愛知県岡崎市と仙台を行き来する生活をしています。自身の学生時代の50年前は岡崎と仙台を行き来することは大変なことでした。高速交通は東海道新幹線と東名高速道路しかありませんでした。今では東北新幹線も東北自動車道も利用することができ便利になりました。高齢者の仲間入りをしましたが、もっぱら車で移動しています。岡崎は徳川家康の生誕地で有名ですが、小生の実家は東海道五十三次の第37番宿場の藤川というところ



写真1 棒鼻跡



写真2 格子造り

おしゃれと土木

東北工業大学名誉教授

今西 肇 (いまにし はじめ) 氏

大阪工業大学客員教授
株式会社小野組技術顧問



東北工業大学工学部都市マネジメント学科今西研究室のモットーは「おしゃれ」であり、「おしゃれ」であることがメンバーになる条件でした。それは今でも変わっていません。

「おしゃれ」とは、語源由来辞典によると、「化粧や服装など身なりに気を配ること。美しく装うこと、そのような人」とあります。おしゃれは、漢字で「御洒落」と書くように、「洒れ(され)：長い間、風雨や日光に晒(さら)され、白っぽくなること」が語源のようです。また、「戯れ(され)：しゃれて趣のある、洗練される。戯(さ)れること」ともいわれ、機転が利き、気が利くこと。垢抜けしていることにも通じるものとされています。室町時代以降、「され」から「しゃれ」へ言い回し

が変化したようです。一方、漢語の洒落(しゃらく)という言葉があります。心がさっぱりして、物事にこだわらないさまを表す言葉ですが、同じような意味がありましたので、江戸時代前期から「しゃれ」の当て字として「洒落」を使っていました。ちなみに、「洒」は酒ではありません。浮世絵師の「写楽」という名前の由来は、彼の作品に役者の絵が多いため、「楽屋を写す」の略という説がありますが、ちょっと「しゃれ」で、洒落(しゃらく)という言葉から来たものだという説もあります。写楽の作品は洒落っていて、風情があるので、そう考えると合点がいきますね。

さて、ここで、「おしゃれ」と「土木」の共通項を見てみましょう。

「おしゃれ」はいつも進化し、バランスがあり、繊細さや緻密さで構成され、個性的です。そして常に探求心にあふれています。土木も、古くて新しいもの、いろんな工法が出現しており、インフラ整備、パブリックコンセンサスとバランス感覚が必要です。また、土木構造物もどれ一つをとっても同じものはありません。さらに、土木が作るものも、移動の心地よさ、住環境の心

地よさなど、国民の福祉に貢献しています。そして、最後に土木も陸だけでなく海や宇宙に向けて好奇心と探求心で社会貢献しています。

最後に私も「おしゃれ」に生きています。時代と役割ごとにステージに分け、その役割が終わったら、次のステージに移る私の「おしゃれ」は次の通りです。

- 第1ステージ：修学人(教育を受けた学校時代)
- 第2ステージ：仕事人(仕事人、職業人としての活動した時代)
- 第3ステージ：国際人(海外での活動時代)
- 第4ステージ：教育人(教育者として大学教員時代)
- 第5ステージ：知育人(アドバイザーとして仕事人、職業人の支援時代)

現在、第5ステージにいます。次の第6ステージはどんなステージか待ち遠しいです。同窓会の皆様は、今、第何ステージですか？



東洲斎写楽の描いた三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛(寛政6年(1794年)5月河原崎座上演の「恋女房染分手綱」より)

「学校法人東北工業大学連携連絡協議会(KJ協議会)」が正式に発足

—仙台城南高校の教育を工大が全学挙げて支援—

仙台城南高等学校 校長 中川西 剛 (なかがわさい たけし) 氏



1 はじめに

仙台城南高等学校と校名を変更して5年目を迎えた。お陰様で、学校は法人や大学はじめ多くの方々の御支援により順調に推移してきている。

何より嬉しいのは、生徒達が様々な場面で芽を出し始めていることだ。学業面では難関大学への進学や工業系全国大会への出場など、また、部活動面では吹奏学部・ダンス部・フェンシング部等の新たな躍進や自然科学部のトウホクサンショウウオの研究など。生徒達がどんな場面でどんな芽を出すのか、楽しみにしている毎日である。

2 KJ協議会の発足 (K=工大, J=仙台城南高)

この4月にKJ協議会が正式に設置された。現在は、工大15名、高校11名の計26名の委員で構成され、渡邊浩文副学長が全体の主査を務めている。協議会設置の発端は、昨年度のことだったが、当時工学部長であった渡邊浩文先生のテクノフォーラムの提案にある。テクノフォーラムの目的は本校生徒に工大のことを良く知ってもらうことにある。本校生徒の多くは工大を志望する。渡邊先生には、工大

を知ることは将来の自分を考えることにも繋がるとのお考えもあったと推察している。

テクノフォーラムは、主に工大のオープンキャンパス開催日を活用して行われ、1年生は学科長による学科紹介、2年生は学科展示ブース見学、3年生は工大進学希望者対象とした受験対策指導など。

この一年間で協議会が扱う内容は、委員の皆様を活発な提案により、一気に下表に示した分科会やWGの設置まで広がった。工大の皆様には感謝するばかりである。

協議会を設置して何よりの成果は、工大と高校との相互の信頼関係がこれまでになく強まったことだ。素晴らしい組織体制となっている。KJ協議会はスタートしたばかりではあるが、今後の充実・発展を大いに期待している。

工大同窓会の皆様には、殆どが後輩になると思われる仙台城南高校に学ぶ生徒達の成長を暖かく見守っていただきたいと思っている。

KJ協議会の概要

- 設置の目的
仙台城南高校と東北工業大学が双方の教育上の共通認識を深めるとともに、高大接続の推進を図ることを目的とする。
- 主な構成メンバー
大学側：副学長、学部長、学長室長、大学事務局長、大学事務局長次 他
高校側：校長、教頭、科長、進路部長、高校事務長 他
- 主な協議内容
(1) 高校生徒の進路選択支援に関する事項
(2) 連携教育に関する事項
(3) 高校と大学との教職員の合同研修に関する事項
- 設置されている分科会・WG
(1) テクノフォーラム分科会
生徒達が、工大の各学科の研究分野や活動内容等について理解を深める為のフォーラムを企画・運営。
(2) アカデミック・インターンシップ分科会
2年生(探究科・科学技術科)が、工大の研究室における研究活動を理解する為の体験学習を企画・運営。
(3) 探究科ゼミ分科会
探究科生が学校設定科目の「探究」の時間で行われるゼミ活動に関して、指導内容や方法等について検討。
(4) 科学技術科ゼミ分科会
科学技術科生が3年次で履修する「課題研究」に関して、指導内容や方法等について検討。
(5) 連携教育分科会
工大に入学が決定した3年生に対する入学前(準備)教育や入学後の学習支援に関して企画・運営・分析。
(6) 女子フォーラムWG
女子生徒に工大を理解してもらうことをテーマにしたフォーラムやカフェを企画・運営。



テクノフォーラム：小林正樹工学部長



菊地良寛 LD 学部長



話しが弾む女子カフェ

学修支援センター開設

副センター長 齋藤 章



大学入試改革により、本学においてもAOVA入試や推薦入試など、一般入学試験以外での入学者の割合が近年増えてきております。このことに伴い、「数学Ⅲ」、「物理」を履修せずに入学してくる学生の割合が増加傾向にあります。これは、高校教育の多様化により、主要教科の必修科目数が大幅に減少させられたことによるものです。

このような状況を踏まえ、従来の「manabiなんでも相談室」を充実・発展させた「学修支援センター」を今年の5月に八木山・長町の両キャンパスに開設いたしました。

学修支援センターでは、昼休みの時間帯を中心に専門スタッフを常駐させ、「学習の仕方が分からない」、「授業が良く理解できない」「試験の事が心配」など大学での学びに不安を抱えている学生の質問等に分かりやすく丁寧に説明や助言ができる体制を整えています。また、専門科目や資格取得、レポートの書き方など学修に関するあらゆる相談にも対応しています。

さらに1年生の「数学基礎」「物理基礎」「英語」の基礎科目については、講義と連携した「基礎学力向上支援講座」を学科ごとに毎週開講し、学習サポートの強化に努め、学生の基礎学力の向上を図っています。

学修支援センターでは、このような取り組みを通して、学生の大学での学習に対する不安を解消し、しっかり学べる学習環境を整え、本学での学修の質向上の一助となるよう日々活動しています。



八木山キャンパス



長町キャンパス

常に新たな文理融合を目指すライフデザイン学部 —平成30年度学部開設10周年—

工学部のデザイン工学科を背景とし、文科省から届け出により認可された「クリエイティブデザイン学科」と「安全安心生活デザイン学科」、それに経営学と人間学の融合を目指した「経営コミュニケーション学科」が認可申請を受け、文理融合のスローガンのもとに3学科の学部開設(2008年4月)から今年で10年の節目を迎えることになりました。

学部開設当初は、如何に多くの高校への認知度を高めるかが最大の課題でありました。そのための各学科の魅力を示したパンフレットやテレビCMも含め、多くの教員の方々が高校訪問を行ったことが記憶に残ります。そのような認知度を高める積み上げもあり、学部全体定員240名を概ね3割を超える入学者を昨年度は迎え入れることに繋がったと言えます。来年度には開設10周年の節目となる記念催

事を現在検討中ではありますが、多くの同窓の方々が参画できるような催事内容を目指したいと思っておりますので、是非とも多くの卒業生の皆様のお越しをお待ちしたいと思います。

(ライフデザイン学部長：菊地良寛)



大学紹介

東北工業大学 一番町ロビー ～地域と大学が一体となる場として～

創造から統合へー仙台からの発進」をスローガンとして掲げ、社会との融合を目指す本学では、地域と大学が一体となり、文化と産業の発達および優れた人材の育成に努めるためのまちなかの拠点として2003年（平成15年）に「一番町ロビー」を開設しました。

1階にある“ギャラリー”は、学生や教職員、大学関係者が企画する作品の展示や、少人数のゼミ、地域活性化の活動の展示発表など幅広く活用され、平成28年度よりフロアを4階から2階に移しリニューアルした“ホール”では、大学主催の学内外講師による「学術講演会」や「シンポジウム」、「市民公開講座（オープンカレッジ）」なども開催されています。この“ギャラリー”と“ホール”では、これまで3,000件を超える企画が催され、来場者は延べ15万人を超えています。

これからも、卒業生の皆さまをはじめ、市民の皆さまと大学の接点となる様々な企画・展示を開催いたしますので、近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



OB・OGによる展示会（1階ギャラリー）



OBが登壇した地域連携サロン（2階ホール）

史料センターに虫明康人元学長 I E E Eマイルストーンを展示

虫明康人元学長のアンテナ研究が I E E E（米国電気電子学会）より歴史的偉業として、評価・認定を受け、I E E Eマイルストーンの銘板が献呈されました。

これにより、虫明康人元学長より本学へレプリカが寄贈され、本学八木山キャンパス附属図書館本館内史料センターの展示コーナーに設置されました。

8月9日（水）14:00より虫明康人元学長をはじめとして、今野弘学長、樋口龍雄理事長他関係者による I E E Eマイルストーン展示除幕式を行いました。



I E E Eマイルストーン
展示除幕式



虫明康人元学長を囲んで

史料センター

史料センターは、創立50周年を機に、東北工業大学の「知の資源」の情報を分かりやすくパネルや実物を展示し、さらには映像による可視化を行い、在学生や高校生及び地域社会（一般市民）に向けて「発信する拠点」の一つとし、併せて本学の歴史の「学びの場」とするために設置したものです。

展示内容は、本学の沿革の他、本学に関わりのある、社会的・学術的等において顕著な功績を持つ方々を紹介する人的資源コーナー。本学における地域連携等の取り組みについての紹介、同窓生から在学生へのメッセージ等を紹介しております。

同窓会においても今後とも情報発信の場として活用していきたいと考えております。



部活動からのお知らせ

硬式野球部50周年記念誌の発行について

硬式野球部OB会事務局 須藤 将仁

日頃より、硬式野球部ならびに硬式野球部OB会の活動にご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

本学野球部は今年3月の卒業生をもって50期生を輩出し、OB会員も383名になります。

50期生輩出に伴い、野球部の創設から現在にかけての軌跡や仙台六大学野球連盟発足からのリーグ戦の結果など、工大野球部の歴史や当時の出来事、思い出等を綴った「東北工業大学硬式野球部50周年記念誌」を発行する運びとなりました。現在、50周年記念誌編集委員会を立ち上げ、OBの方々から当時の写真や、現役時代の思い出などを伺いながら、来たる10月28日（土）に行われる硬式野球部OB会総会に合わせて発行するため、準備をすすめております。OB会員以外の方も購入可能ですので、興味のある方はぜひ事務局までご一報いただきたく、

お願い申し上げます。

また、硬式野球部においては、今年度より強化指定クラブに認定され、今年2月より、元千葉ロッテマリーンズ2軍監督の佐々木信行氏をヘッドコーチとして招き、強化を図っております。春季リーグ戦では上位校に勝ち星を挙げするなど、試合内容や選手の意識に変化が見られるようになってきました。OB会としても、硬式野球部が更なる発展を遂げるよう、サポートしたいと思います。

今後とも、硬式野球部ならびに硬式野球部OB会をよろしくお願い致します。

50周年記念誌の購入・お問合せにつきましては、下記までご連絡をお願い致します。

硬式野球部OB会事務局

TEL: 022-304-5502 (須藤)

弓道部創部50周年

本学弓道部は、今年度創部50周年を記念し下記のとおり記念射会・祝賀会を開催いたしました。現在260余名のOB・OGが活躍しており、当日は多くの卒業生が長町キャンパス弓道場に集まりました。

創部50周年の記念として、OB会より現弓道部員に弓具一式の贈呈とOB・OGの参加者には染手拭い、「いくは（機関誌）」の記念号も発行しました。



八木山キャンパス旧弓道場
1986年7月撮影



長町キャンパス現弓道場
2016年7月



建築学科 50 周年記念式典

建築学科 50 周年記念実行委員会 実行委員長 野津 弘 (昭和 51 年卒)

昨年 10 月 8 日に建築学科 50 周年を記念した「卒業生の集い」を約 500 人の皆様の参加をいただき盛大に開催することが出来ました。

この 50 周年をお祝いするに当たり、卒業生有志と教員とで実行委員会を組織し、単なる一過性のお祭りではなく、卒業生と大学を繋ぎ、社会と大学の結びつきを強固なものにし、且つ、これからの東北工業大学建築学科を考えるマイルストーンとしての位置付けを意識した企画となるよう考えました。建築映画の上映をスタートに 4 回の記念講演を実施し、建築の今日的話題、将来的な展望、そして歴史からの参照と建築学科の歩みとともに次の 50 年、100 年を考える機会となるよう企画展開を行ってまいりました。

そして「卒業生の集い」は歴代の教員の皆様、現職教員の先生方、1 回生から在生までの全年代の参加を得て開催されました。楽しく談笑し、

時には真剣にこれからの建築学科の事を語りながら、次の世代へ繋ぐリレーのような会となりました。

これもひとえにご協力、ご支援いただきました東北工業大学及び大学法人、同窓会及び後援会、そして経済交流会の皆様のおかげであると感謝いたしております。また、一連の企画、及び記念事業の一環として発刊いたしました「東北の建設を支える企業図鑑」に対して協賛いただきました企業の皆様には心から感謝申し上げます。



電子・通信工学科の集い - 電子・通信工学科 50 回生記念 -

電子・通信工学科 50 周年記念実行委員会

平成 28 年 11 月 12 日 (土)、午後 4 時から仙台国際ホテルにおいて、「電子・通信工学科の集い - 電子・通信工学科 50 回生記念 -」の記念講演会・懇親会が行われました。

記念講演会では、初めに電子工学科第 1 期生の庄司忠良氏 (現東北工業大学名誉教授) から「電子工学科・通信工学科 50 年の変遷」について発表があり、その後、「環境計測用レーザー研究の歩みと新展開」と題し、東北工業大学大学院工学研究科佐藤篤准教授 (通信工学専攻博士後期課程：平成 10 年度修了)、「化合物半導体放射線検出器の開発」と題し、東北工業大学大学院工学研究科人見啓太郎准教授 (通信工学専攻博士後期課程：平成 12 年度修了) の記念講演が行われ、100 名を超える同窓生・旧教職員が出席しました。

懇親会では、学校法人東北工業大学樋口龍雄

理事長に続いて、東北工業大学今野弘学長からご挨拶を賜った後、同窓会秋元俊通会長の発声の乾杯で電子・通信工学科 50 回生記念を祝いました。大学関係のご来賓、同窓生、旧教職員等 150 名の出席をいただき、にぎやかな歓談が行われた後、大学歌を斉唱し、知能エレクトロニクス学科丸山次人学科長の「伊達の一本締め」で会は無事終了しました。

※本当は、佐藤篤 (通信工学科第 26 回生) と書きたいところですが、人見啓太郎が学部を卒業していないため、第〇回生と書けないので、大学院修了で記載した。



土木工学科 (建設システム工学科・都市マネジメント学科) 創立 50 周年記念事業のご案内

平成 29 年、土木工学科 (建設システム工学科・都市マネジメント学科) は創立 50 周年を迎えます。学科創立 50 周年事業を下記のとおり企画いたしました。詳細につきましては、記念行事ごとのご案内や学科 HP に創立 50 周年記念事業のサイトを設けますので、ご覧下さい (<https://www.jicoojin.com/CEM/>)。

記

【大学公開】

月 日：平成 29 年 11 月 18 日 (土) 12:00 ~
場 所：東北工業大学 八木山キャンパス (旧香澄町キャンパス)
仙台市太白区八木山香澄町 35-1

【記念講演会】

月 日：平成 29 年 11 月 18 日 (土) 14:00 ~ 16:00
場 所：東北工業大学 八木山キャンパス

【記念祝賀会】

月 日：平成 29 年 11 月 18 日 (土) 18:30 ~
場 所：江陽グランドホテル
仙台市青葉区本町 2 丁目 3-1
TEL (代) 022-267-5111

【50 周年記念展示】

月 日：平成 29 年 11 月 17 日 (金) ~ 22 日 (水)
場 所：東北工業大学 一番町ロビー (1F ギャラリー)

仙台市青葉区一番町 1-3-1 (TM ビル)
TEL 022-723-0538

【お問合わせ】

東北工業大学 土木工学科創立 50 周年記念事業実行委員会
(東北工業大学工学部 都市マネジメント学科事務室)
仙台市太白区八木山香澄町 35-1
TEL 022-305-3500 FAX 022-305-3501
E-mail ce.manage@tohtech.ac.jp

主催 都市マネジメント学科・工大杜の会
協賛 東北工業大学同窓会

実行委員長 加藤 嘉 憲
(工大杜の会 会長 7 回生)
発 起 人 遠藤 敏 雄
(株式会社 復建技術コンサルタント 代表取締役 5 回生)
発 起 人 千葉 嘉 春
(東北建設業協会連合会 会長 6 回生)
発 起 人 中山 正 与
(都市マネジメント学科 学科長 7 回生)

工業意匠学科創立 50 周年記念事業のご案内

東北工業大学工業意匠学科創立 50 年にあたり、「東北工業大学工業意匠学科創立 50 周年記念事業 - 工業意匠学科 (デザイン工学科) からクリエイティブデザイン学科・安全安心生活デザイン学科まで -」を開催することになりました。是非ご出席いただきますようご案内申し上げます。

□工業意匠学科創立 50 年記念

シンポジウム・パーティ
・日時：11 月 11 日 (土) 14:00 ~ 20:00
・場所：仙台国際ホテル (仙台市青葉区中央 4-6-1 TEL.022-268-1111)
・出席者 工業意匠学科 (デザイン工学科) から CD 学科・SD 学科までの卒業生及び学生。退職された教職員及び関係者。現職の教職員。

○記念シンポジウム (14:00 ~ 17:10)

テーマ：工大・デザイン「これまでの 50 年」
「これからの 50 年」を語る
・第一部「これまでの 50 年」
- 暮らしのためのデザイン・秋岡芳夫を語る - (14:05 ~ 15:45)
<映像で紹介> 工業意匠学科から 50 年の紹介
・第二部「これからの 50 年」
- 卒業生が語る実践者の視点・女性の視点 - (15:55 ~ 17:10)
○記念パーティ (17:15 ~ 20:00)

○参加申し込み：事前に会費振込をお願いします。

シンポのみ参加者：3,000 円 (記念品・冊子代)
パーティ参加者：10,000 円 (記念品・冊子代含む)
※欠席者で記念品・記念冊子を希望する方は 3,000 円の振込と送付先の連絡をお願いします。

名称：工業意匠学科 50 年実行委員会
住所：仙台市太白区二ツ沢 6 番 東北工業大学
①ゆうちょ銀行：
口座番号 02290 1 122554

②七十七銀行：
口座番号 203-5010679
■OB・OG、教職員からのメッセージを募集
OB・OG、退職及び現職教職員の方々より、「これまでの 50 年・これから 50 年」や「学生に向けて」などをテーマに 120 文字程度のメッセージを募集しております (創立 50 周年記念冊子やパネル展に掲載予定)。
下記、E-mail 等で送付をお願いいたします。
(締め切り：10 月 6 日 (金))

□問い合わせ先：工業意匠学科 50 年実行委員会
担当：高木理恵 (SD 学科)
E-mail : design50@tohtech.ac.jp
TEL : 022-304-5500 FAX : 304-5591
(この電話は工大長町キャンパス事務室の番号です。要件を実行委員担当者に伝えます)

< 同窓会からのお知らせ >

東北工業大学同窓会 第33回定時総会・懇親会のお知らせ

【総会議題】

< 1 > 平成 28 年度事業報告 < 2 > 平成 28 年度決算報告 < 3 > 平成 28 年度監査報告
< 4 > 平成 29 年度事業計画 < 5 > 平成 29 年度予算案 < 6 > その他

【定時総会・懇親会】

開催日時 平成 29 年 10 月 21 日 (土)

会 場 仙台国際ホテル

(仙台市青葉区中央 4-6-1 022-268-1111 代)

■定時総会 16:30 ~ 17:30 3F 桜の間

■懇親会 17:30 ~ 19:30 4F 広瀬の間

懇親会参加費：3,000 円

※参加費は当日会場にて徴収いたします。

懇親会には多くの先生方もご臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上で参加ください。

卒業した皆様へ

東北工業大学同窓会 会費未納の方へ 「会費納入のお願い」

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しています。同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。

●終身会費 20,000 円
(5,000 円×4回・10,000 円×2回の分割納入方法もございます)

●郵便振替口座
02280-5-22263 東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封しておりません。
本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご御容赦ください。

< 同窓会名簿発刊 (平成29年版) のお知らせ >

昨年の9月から作業を進めておりました同窓会名簿が8月に完成しました。

卒業生約 35,800 名、頁数 714 頁、本文は学科・卒年・五十音順に掲載されております。

卒業生限定で一冊 5,000 円 (消費税込み) にて販売しております。在庫に限りがありますので申込希望の方は事務局までご連絡ください。



発 行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内

〒 982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.koudai-dousoukai.net